慶應義塾大学ビジネス・スクール

リスクを考慮した経営管理(2)

1．リスク定量化モデルの必要性

企業経営を行ううえで、事業を取り巻くリスクを十分に考慮して的確な経営判断を下すことが必要である。それを行うにはリスク評価モデルを組み込んだ経営管理手法を導入することが有効であると考える。このノートでは商社を想定し代表的な資産項目である棚卸資産についての定量化モデルの例を提示し、それらを通じてモデルの有効性並びに定量化数値の経営管理データとしての有効性を提示するものとしよう。

リスク定量化モデルを作成する場合には、企業の設定したリスク定義に基づく具体的な事象を想定し、それに合わせた定量化モデルを作成していくことが必要である。企業経営における最大のリスクを企業倒産と仮定した場合、倒産の直接の原因となるのは資金調達力の喪失である。評価対象を保有資産とするモデルを採用する場合においては、それは担保価値としての資産の目減りにより資金調達力が低下することと捉えられる。このようなリスク概念のもとでは、実際に起こり得る事象からリスクを定義すると、大まかに次の３つのものに分類が可能であろう。

1．市場価格の変動による資産価値の低下を考慮するもの
2．取引企業並びに取引国の契約不履行により被る（債権未回収による）損失を考慮するもの
3．事業に供している資産の減損により発生する損失を考慮するもの

この３つのリスクに対するリスク要素と評価方法を検討し、併せて適用すべき資産の性質を考慮すれば企業の保有するあらゆる資産に対する評価モデルを柔軟に作成することが可能であると考える。このノートでは、商社を念頭に置くが多くの企業でも保有する一般的な勘定科目である棚卸資産について、その資産の性質からリスク要素を分析し、定量化モデルの

このテクニカルノートは慶應義塾大学大学院経営管理研究科の柴田典男教授と同修士課程の肥田冠とがケース討議のために作成した（2001年１月）